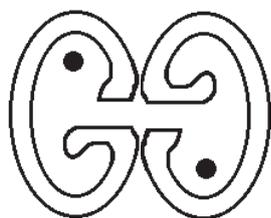


# 日本双生児研究学会ニュースレター

《第 68 号》

Newsletter of Japan Society for Twin Studies

2020 年 7 月発行



## 目 次

・ 日本双生児研究学会 会長挨拶	2
・ 日本双生児研究学会 第 35 回学術講演会のご案内	2
・ 日本双生児研究学会 第 34 回学術講演会 シンポジウム 大木秀一教授追悼シンポジウム：『多胎家庭支援の諸相』	5
・ 第 6 回奨励賞受賞講演報告 「首都圏ふたごプロジェクトと私の 10 年」野寄 茉莉(弘前大学教育学部)	6
・ 総会・幹事会報告	7
・ 学会事務局からのお知らせ	10
・ 2020 年度日本双生児研究学会奨励賞受賞候補者推薦方法について	11
・ 会員用メーリングリスト運用のご案内	12
編集後記	12

### 会員募集のお知らせ

入会を希望される方は郵便振替用紙に口座番号（00910-2-253840）、加入者名（日本双生児研究学会）  
をご記入の上、年会費（3,000 円）をご送金下さい。また、通信欄に所属・所属の住所・電話番号・  
FAX 番号・E-mail 等をお書き添え下さい。

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-7 大阪大学大学院医学系研究科

附属ツインリサーチセンター内 日本双生児研究学会事務局（渡邊幹夫）



## ごあいさつ 志村 恵（金沢大学）

この度、安藤寿康先生の任期満了により新たに日本双生児研究学会の会長をお引き受けした志村と申します。井上英二先生をはじめ、双生児研究に大きな足跡を刻んでこられた諸先生の後を引き継ぐと思うと身の引き締まる想いですが、2年間の任期中、どうぞよろしく願いいたします。

私は石川県において石川県立看護大学の故大木秀一と共に、さまざまな活動をしてきました。本来ならば、私ではなく大木先生こそが会長職に就くべき碩学でしたが、残念ながらその願いはかないません。さて、よく指摘されていることですが、双生児研究には「双生児を使った研究」（双生児法など）、「双生児についての研究」（発達心理学や医学など）、「双生児のための研究」（育児支援など）があります。私は、この三つの方向性がバランスよく進められていくことが日本の双生児研究を大きく発展させる大事なポイントと思っています。また、多胎家庭の当事者・治験者（養育者や多胎本人）を大切にする姿勢こそがそれを支えるバックボーンだと信じています。実は、これは故大木教授の願いでもありました。その意味で、これからの2年間、たとえば学術講演会などにおいて、狭い意味での双生児研究と多胎育児支援研究がバランスよくなされることを希望します。

双生児研究の多くの研究者は、それぞれの専門分野に関係する学会において精力的に研究活動を行っていると思います。そしてその上で、それらの研究で得られた知見を双生児研究に生かしたり、あるいは逆に双生児法などを使ってご自分の専門分野の研究を進められていると思います。今後はなお一層、本研究学会において得られた成果を積極的に発表していただければと思います。本研究学会がより活発に活動する学会になるようしっかりと運営していきたいと思っています。ご協力、よろしくごお願い申し上げます。

## ＜日本双生児研究学会 第35回学術講演会のご案内＞

### I. 学会実施要綱

今般の新型コロナウイルスの感染状況の行く末が未だに不透明であることから、会員の皆様におかれましては、不安な日々を過ごされていることと存じます。

**第35回学術講演会は、中止することなく、オンラインで実施すること**を幹事会で確認いたしました。オンライン学会の実施形式に関しましては、基本的にZoomによるリアルタイムの口頭発表を予定しておりますが、会員の皆様の回線状況なども鑑み、現在検討中です。

つきましては、現時点では以下のように、開催日時と演題申し込みに関する情報を中心にお知らせ申し上げます。最終的な開催方法につきましては、11月末までに決定し、演題申し込みをされた方に直接メールでお知らせすると共に、次号のニュースレター、ならびに学会ホームページとメーリングリストにて会員の方々にお知らせいたします。発表形式に関して、なにかご要望やお尋ねがありましたら、大会長までメール(juko@biglobe.jp)でお問い合わせください。

ご不便をおかけしますが、なにとぞご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 1. 日程、開催方法、大会長、事務局

- 1) テーマ Twins in crisis (危機の中のふたご)
- 2) 日程 2021年1月23日(土)10時00分～17時00分(予定)
- 3) 開催方法 Zoomシステムによるリアルタイムの口頭発表を予定
- 4) 大会長 安藤寿康(慶應義塾大学)
- 5) 事務局 同(連絡先 juko@biglobe.jp)

## 2. 参加資格および参加費

- 1) 日本双生児研究学会会員の他、非会員、学生も参加できます。
- 2) 参加費 無料

## 4. 演題申込と抄録送付

- 1) 演題申込は、抄録の送付をもって申込とします。
- 2) 抄録は、下記の要領で作成した word 文書を”JSTS35\_あなたの姓名.doc”(例:”JSTS35\_jukoando.doc”; 件名も同様)として juko@keio.jp に送付してください(事務局の問い合わせ先アドレスとは異なります)。
- 3) 演題募集受付期間 2020年9月23日(水)～10月31日(土)17時必着

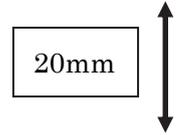
## 5. 抄録の作成

※オンラインによる学会実施のため、抄録集およびプログラムは電子的に作成し、webを通じて配信する予定です。

- 1) 原則として抄録原稿は word による文章ファイルとします(編集する可能性がありますので pdf ではなく word 文書でお願いします)。但し、特別に理由がある場合、図表等は 1 点までとしますが、その際には応分のスペースを文字数から差し引きしてください。不明な点は学会事務局に相談してください。
- 2) 本文の文字サイズは 10.5 ポイントとし、和文フォントは明朝体で全角、英文およびアラビア数字は半角 としてください。
- 3) 表題の文字サイズは 14 ポイントとし、簡潔明瞭に抄録内容を表すものとします。
- 4) 発表者名は 10.5 ポイント、所属施設名、共同研究者名の文字サイズは 9 ポイントとし、正確に表記してください。
- 5) 抄録原稿は、下記の作成例を参考に A4 判の用紙 1 枚に簡潔に記述してください。可能であれば I 目的・II 方法・III 結果・IV 考察・V 結論別にまとめてください。ただし、I～V のような項目分けが難しければ、それ以外でも可。カラー印刷は不可とします。
- 6) 原稿は上 20mm、下 20 mm、左右 20mm の余白をとる。
- 7) 抄録原稿は、表題・発表者名・共同研究者名・所属施設名を記入してください。

## 6. お問い合わせ先

メールアドレス: juko@biglobe.jp (安藤寿康)



(作成例) 表題 (文字サイズは 14 ポイント)

双生児 花子<sup>1</sup>・双生児 太郎<sup>2</sup> (文字サイズは 10.5 ポイント)

<sup>1</sup>△△△大学・<sup>2</sup>〇〇〇会 (文字サイズは 9 ポイント)

(一行あける)

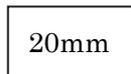
※本文はここから記入

用紙は、上下 20mm、左右 20mm の余白をとる。

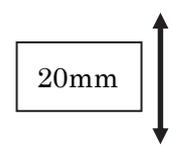
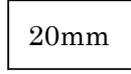
本文の文字サイズは 10.5 ポイント

和文フォントは明朝体で全角、英文およびアラビア数字は半角 としてください。

可能であれば I 目的・II 方法・III 結果・IV 考察・V 結論別にまとめてください。ただし、I～V のような項目分けが難しければ、それ以外でも可。



カラー印刷は不可とします。



## <日本双生児研究学会 第34回学術講演会 シンポジウム 記録>

### 大木秀一教授追悼シンポジウム：『多胎家庭支援の諸相』

2020年1月11日（土）に金沢大学で開催した第34回学術講演会のシンポジウムの記録です。

はじめに志村大会長から本シンポジウムの趣旨説明があり、次いで、大木先生の紹介が行われた。大木先生は、石川県金沢で初めて学会が開催されたときに石川県立看護大学に赴任され、これまで多胎家庭への支援でも、特に地域の多胎育児の中間支援を中心に取り組まれてきた。また、今回は大木先生の追悼シンポジウムでもあるため、大木先生の意思を引き継ぐ意味でも、多胎支援に力を注いでこられた方々に現在の活動を紹介していただきながら、これからの活躍と発展を願い、報告をいただく会として開催することとなった。

まず、最初に一般社団法人 日本多胎支援協会代表理事で十文字学園女子大学の布施晴美先生から報告をいただいた。布施先生は、大木先生は海外との関係性を重視し、JAMBA（ジャンバ）という言葉を国内で初めて示された先生であること、そして、少子化ながらも多胎のお母さん方が全体の2%の割合を占める中で、多胎の子どもへの虐待、成長発達の問題に対するケアについて、大木先生ご自身が調査したデータを基に母親の心配事やストレスを軽減するようなサポートに力を注がれていたことについて述べられた。また海外の日本在住の方々にも多胎支援をするべきと行政に訴えかけていた。協会の活動の発展は、それらの大木先生の実績がベースとなっていると、大木先生との繋がりについて話された。

続いて東京多摩地区をベースとして活動されている杏林大学の太田ひろみ先生から報告をいただいた。八王子市での多胎家庭支援は2005年から始まり、2006年に多摩多胎ネットとなり、設立にあたってはJAMBA（ジャンバ）の前身である田中さん、杉浦さんにご尽力いただき、主に多胎家族の交流会、多胎育児準備、多胎ピアサポーター育成などの3つの活動を中心に取り組んできたことについて報告された。そして、大学が行うことのメリットとして、学生の協力が得られること、医師、助産師が仕事の一環として手伝ってくれること、大学自体が地域貢献をしていること、などが挙げられ、これからの課題、資金の獲得、ICTの積極的な活用等について話された。

次にツイنزサポートを行っている東京都荒川区子育て支援課長の伊藤節子さんから行政のサポートについて話をいただき、平成18年に子ども支援部が設立され、0～2歳児のご家庭にタクシーの利用助成、0～5歳児のご家庭にベビーシッターの助成制度を作り、特に出産前後の多胎育児サポートを主眼に置いて活動していることの報告をいただいた。そして、NPO法人ぎふ多胎ネット理事長の糸井川誠子さんからの報告では、団体の特徴について、様々な立場の人たちが心を寄せて、多胎当事者同士が協力し合い、子育て情報、スキル、仲間、共感者、支援者の不足から起こる虐待をエンパワーメントでもってサポートをしてきたことが述べられた。そして、先輩パパ、先輩ママグループを作り、その中で覚悟と安心のサポートをしていると話された。最後に、2002年に開設された石川県白山市NPO法人おやこの広場あさがお理事・事務局長の川上由枝さんから報告をいただいた。「あさがお」として大切にしてきたことは、地域のために輪番で365日サポートできるような体制を取り、子どもを預けるときの料金設定だけでなく、預けることに対する抵抗を無くし、安心して預けられるように心の面での安心を提供することに心掛けた。また、訪問支援では傾聴と協働を大切にしてきたことにより時間がかかったが、多胎の親御さんと丁寧に向き合うことで多胎家庭をケアしていける要素であることについても話がされた。

まとめに、志村大会長より、大木先生の功績によって多胎育児支援、双生児研究の発展があり、大木先生のご尽力に感謝の言葉が述べられ、シンポジウムの幕が閉じられた。

## <第6回奨励賞受賞講演報告(第34回学術講演会にて)>

### 「首都圏ふたごプロジェクトと私の10年」

野寄 茉莉(弘前大学教育学部)

この度は、栄誉ある賞をいただきまして誠にありがとうございました。奨励賞選考委員の先生方、そして、学会長であり、首都圏ふたごプロジェクト(通称 ToTCoP)の代表として私の研究を支えてくださった安藤寿康先生に心より感謝申し上げます。また、私個人がいただいた賞ではありますが、プロジェクトを支えてきてくださったたくさんのスタッフの力無くしては、研究を進めることはできませんでした。この原稿を書いている今もなお、みなさまにはとてもお世話になっております。

ToTCoPの起ち上げは2004年、同じ個人やグループをある期間にわたって追跡する「縦断調査」という手法を中心に、ふたごさんのいるご家庭を対象とした様々な調査を継続して行っています。私は修士課程の大学院生だった2008年5月からプロジェクトの一員として携わっており、「ふたごが誰とどのように関わって発達していくのか」という、ふたご『の』研究を軸に研究を行ってきました<sup>1</sup>。2014年までは、36か月・48か月時点の家庭訪問調査、42か月・60か月時点のふたごのなかま調査(3組のふたご家庭が同時に大学に集まることからこのような名称が付けられていました)を中心として、社会性や認知能力の発達を調べるための個別の調査やきょうだい関係・親子関係を調べるための行動観察を実施してきました。2015年からは新たな調査のフェーズに移り、fifth調査と呼ばれる小学5年生のふたごさんを対象とした調査を実施しています。これも縦断調査の一環として、過去に家庭訪問調査やふたごのなかま調査にご参加いただいた方を対象に実施しています。fifth調査を実施したことで、ふたごさんの成長を嬉しく思うのと同時に、成長にともなって保護者の方の悩みの内容も変化していくものだとことを痛感しました。受賞講演会当日は、調査中のふたごさんの写真を提示しながら、成長の様子をご覧いただきました。

長い期間にわたって大規模な研究プロジェクトを動かしていくこと、尚且つ、主な相手は幼いお子さんたちですから、様々な苦労と工夫の積み重ねがありました。例えば、参加者の脱落を防ぐためにフィードバックや謝礼を工夫すること、発達調査における調査員間の評価のずれを防ぐために入念な研修とミーティングを行うこと、ふたごさんの緊張が思った以上に強かったり・途中で寝てしまったり(!)とこちらの予定通りには進まない時に調査員間で臨機応変に対処することなどが挙げられます。研究者としての入り口にすらまだ立っていなかったかもしれない時期からToTCoPに携わったことは私にとって非常に貴重な経験であり、多くのことを学ぶことができました。たくさんの人が関わる研究ということはそれだけ様々な問題も発生します。その時に、研究者が中心となって対応することは、参加者だけではなく調査スタッフの安心感にもつながるものだと思います。また、私自身はふたごさんのご家庭と顔を合わせて行う調査に力を注いできましたが、折々に保護者の方から温かいコメントをいただくこともあり、対面式の調査を継続することによって微力ながらもふたご家庭の支えになることもできたのではないかと感じています。

収集したデータについては、まだまだ分析できていないことが残されています。受賞を励みに、今後とも研究に精進して参ります。

---

<sup>1</sup> 研究の詳しい成果については、学会ニュースレター第65号をご参照ください。

## <総会・幹事会報告>

### 日本双生児研究学会 2020 年第 1 回幹事会 議事録

日 時：2020 年 1 月 11 日（土）12:30～13:40

場 所：しいのき迎賓館ガーデンルーム

出席者：五十音順 敬称略

《現幹事》安藤寿康、加藤則子、志村恵、菅原ますみ、天羽千恵子、早川和生、  
広瀬英子、本多智佳 8 名

《現監事》前川浩子 1 名

《新幹事》糸井川誠子、布施晴美、渡邊幹夫 3 名

欠席者：野中浩一、福島昌子、横山美江

#### 報告事項

##### 1. 第 34 回学術講演会の開催状況について

志村恵大会長より、午前中の参加は約 50 名であることが報告された。

##### 2. 2019 年の活動報告

###### 1) ニュースレターの発行

廣瀬編集委員より、ニュースレター第 66 号（3 月）、第 67 号（12 月）の発行が報告された。

###### 2) 会員状況報告

事務局の本多幹事より、2019 年 12 月末現在の会員数について、現会員数 112 名（うち新規入会者 5 名、名誉会員 8 名）、長期未納者 3 名、退会者 1 名であると報告された。

###### 3) 研究会について

安藤学会長より、2019 年 3 月 10 日に Drs. Kerry Jang and Jeffrey Craig を講師として慶應義塾大学にて開催し、活発な研究会となったことが報告された。

###### 4) 事務局交代について

安藤学会長より、大木秀一幹事のご逝去に伴い、本多智佳幹事を代表とする大阪大学ツインリサーチセンターに事務局を移転し、事務手続き等が滞りなく完了されたことが報告された。

###### 5) メーリングリスト（ML）について

天羽幹事より、現在の会員用 ML の登録率は、全会員の 79%であることが報告された。 ※未登録者の登録は、学会 HP の「問い合わせ」フォームより受付。

###### 6) 2019 年の会計収支報告及び監査報告（別紙資料参照）

安藤学会長より会計収支報告がされ、前川監事による監査報告を受けて、承認された。

##### 3. 幹事選挙結果と、新幹事について

安藤学会長より、選挙による 9 名と会長推薦 3 名を含む 12 名の幹事が選出され、本人承諾を経て、新幹事案が提出され、幹事会にて承認された。また、野中浩一幹事、天羽千恵子幹事の辞任が認められた。

新幹事は、次の通りである。

安藤寿康、糸井川誠子、加藤則子、志村恵、菅原ますみ、早川和生、広瀬英子、福島昌子、布施晴美、本多智佳、横山美江、渡邊幹夫（12 名、五十音順 敬称略）

## 審議事項

1. 新・奨励賞規定と本年度の奨励賞について  
奨励賞選定委員会より、規定の改訂案が提出され、承認された。(別紙資料参照)  
2019年度の奨励賞授与については延期とし、新规定に則った選考を奨励賞選定委員会にて審議することとなった。複数応募の際の対応については、申し合わせ事項をベースに選定委員会にて案を作成することとなった。
2. 新・学会規定について (別紙資料参照)  
安藤学会長より、本学会規定について、①事務局移転に伴う事項、および当会の運営に必要な②会員登録事項の追加について提案され、承認された。
3. 新・幹事選挙施行規定について (別紙資料参照)  
選挙管理委員会より、より円滑な幹事選挙遂行のための幹事選挙施行規定改訂の提案がされ、①被選挙人条件、②投票用紙記名人数、③選出人数に関する条項の追記について承認された。
4. 名誉会員規定について  
すでに提出されている名誉会員規定について、幹事MLにて継続審議することとなった。
5. 新学会長について  
安藤学会長より、新学会長として志村恵幹事が推薦され、承認された。
6. 2020年の活動予定について
  - 1) ニュースレターの発行について  
廣瀬幹事、福島幹事が引き続き編集委員となり、例年通り「春(5～6月頃)」と「冬(11～12月頃※学術講演会前)」の2回発行することとなった。
  - 2) 研究会の開催について  
開催地や開催内容について、継続審議することとなった
  - 3) 日本双生児研究学会名誉会員の推薦  
年齢条件などを確認し、継続審議することとなった。
7. 2020年度の予算案について (別紙資料参照)  
安藤学会長より2020年度予算案が提出され、承認された。
8. 第36回(2021年)学術講演会について  
安藤寿康幹事を大会長とし、慶應義塾大学での開催を検討することとなった。

以上

## 日本双生児研究学会 2020年 総会議事録

日時：2020年1月11日(土) 13:50～14:20

場所：しいのき迎賓館ガーデンルーム

【報告・審議内容】幹事会議事録に準ずる。

《添付資料》

- ①2019年度会計収支報告及び監査報告書
- ②2020年度会計予算書
- ③新・日本双生児研究学会規約(幹事選挙施行規則を含む)
- ④新・日本双生児研究学会奨励賞選考規定

以上

日本双生児研究学会 令和元年(2019.1.1~2019.12.31)会計収支報告

収入		支出	
前年繰越	1,279,714	ニュースレター印刷費(65,66,67号)	140,947
		ニュースレター郵送費(65,66,67号)	43,272
会費収入		ニュースレター編集代(平成30年、令和元年)	60,436
平成29年度年会費(7)	21,000	奨励賞関連費用	54,482
平成30年度年会費(23)	69,000	研究会関連費用	20,216
令和元年度年会費(75)	225,000	第33回学術講演会援助費	100,440
令和2年度年会費(20)	60,000	幹事会費用	13,159
未処理分	15,000	ホームページ関連費	32,911
		事務局人件費	30,000
		通信費	792
		幹事選挙関連費(消耗品費含)	28,713
利子	10	次年繰越金	1,144,356
収入合計	1,669,724	支出合計	1,669,724

以上 相違ありません。  
令和 2 年 / 月 / 日

監査 前川 浩子 

監査 玄田 朋恵 

日本双生児研究学会 令和2年(2020.1.1~2020.12.31)会計予算案

収入		支出	
前年繰越	1,144,356	ニュースレター印刷費(68,69号)	100,000
		ニュースレター郵送費(68,69号)	30,000
会費収入		ニュースレター編集費(R2年)	30,000
72人(111*0.65)*¥3,000	216,000	研究会講演者謝金	20,000
過年度会費25人*¥3,000	75,000	研究会講演者交通費	30,000
		研究会会場使用費	5,000
利子	15	第35回学術講演会援助費	100,000
		会議費(幹事会)	10,000
		奨励賞関連費	55,000
		ホームページ関連費	35,000
		事務局人件費	60,000
		消耗品費	5,000
		次年繰越金	955,371
収入合計	1,435,371	支出合計	1,435,371

## 日本双生児研究学会 2020 年第 2 回幹事会（書面付議）議事録

日 時：2020 年 6 月 9 日（火）から 6 月 15 日（月）まで

出席者（回答者）：12 名中 11 名

### ○審議事項

1. 2021 年 1 月の慶応大学における日本双生児研究学会学術講演会の開催方法について

新型コロナウイルス感染症の状況に鑑みて、オンサイトの開催はせず、オンラインの開催とし、細かい方法については、大会長の安藤先生に一任するとの原案を賛成多数で承認した。

2. 2022 年 1 月の日本双生児研究学会学術講演会の開催について

松葉敬文会員からお申し出のあった岐阜聖徳大学を会場とすることと、大会長を同会員にお願いするとの原案を賛成多数で承認した。

3. ニュースレターのホームページでの公開について

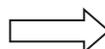
ニュースレターのホームページの公開は、各号ニュースレター発行の一年後に行うとの原案を賛成多数で承認した。

以上。

### <学会事務局からのお知らせ>

学会ホームページの URL は、<https://jsts.jp.net/> です。

学会ホームページの QR コードもご利用ください。



## <2020 年度日本双生児研究学会奨励賞授賞候補者推薦方法について>

2020 年度日本双生児研究学会奨励賞授賞候補者がありましたら、2020 年 9 月末日までに御推薦ください。

### 日本双生児研究学会 奨励賞規程

第 1 条 日本双生児研究学会奨励賞候補者（以下候補者）の推薦基準は、以下の要件を満たした者とする。

- 2 本学会会員のうち、我が国の双生児研究の領域における学問水準の飛躍的向上を図ることに貢献することが期待される者。
- 3 双生児研究に関する独創的研究で、かつ将来の発展を期待しうる研究業績を有する者、研究業績は、国内外の学術雑誌に掲載されているものとする（受理されていても未公開のものは含めない）。
- 4 日本双生児研究学会の会員で、原則として 50 歳未満である者。

第 2 条 候補者の推薦は、原則として幹事が推薦し、推薦できる人数は 1 年につき 1 名とするが、自薦も可とする。

- 2 推薦者（自薦の場合は立候補者）は、候補者に関する下記の書類（論文別刷以外の書類は A4 版の大きさの用紙に横書きに記載したものとする）各 4 部を 9 月末日までに日本双生児研究会事務局に提出する。
  - 1) 候補者の氏名、所属、所属先住所、略歴、関連論文目録
  - 2) 業績の概要（A4 版用紙 1 枚程度におさめること）
  - 3) 選考対象となる研究業績に係わる論文の別刷

第 3 条 奨励賞は、下記の要領により決定する。

- 2 候補者の選考は、推薦基準により選考委員会が行う。
- 3 選考委員会の構成は、幹事 4 名とする。なお、推薦者および立候補者となった幹事は選考委員になることはできない。
- 4 選考委員長は選考委員の互選とする。
- 5 選考委員長は、選考結果を幹事会に報告し、11 月末日までに承認を得て受賞者を決定する。

第 4 条 受賞者は、受賞年度の日本双生児研究学会総会において、会長より賞状と副賞が授与され、受賞記念講演をおこなうこととする。

第 5 条 奨励賞に関する事務局は、日本双生児研究会事務局とする。

附則

この規程は、令和 2 年 1 月 12 日から施行する。

## <日本双生児研究学会 会員用メーリングリストについて>

当学会事業のお知らせと、会員間の情報交換や交流にもご活用いただきたく、2017年度より会員用新メーリングリスト ([jstsm1@googlegroups.com](mailto:jstsm1@googlegroups.com) 以下 ML) を運用し、2020年1月現在で約8割の方にご登録いただいております。ご協力をありがとうございました。

登録がお済みでない方は、下記の手順に従いご登録くださいますようお願いいたします。

### ◎現会員の登録について

学会 HP の【お問い合わせフォーム】 (<https://jsts.jp.net/contact/>) を選び、「お問い合わせ内容」に「ML 登録希望」として、①お名前、②メールアドレス、③所属等の3点をお知らせください。追って担当者より「ML 登録完了」のご連絡をいたします。

### ◎新会員の登録について

新入会員については、「ML 非登録」のお申し出がない限り入会申込と共に ML に登録しますので、連絡は不要です。ご入会後に担当者より「ML 登録完了」のご連絡をいたします。

### ◎配信の停止・変更

配信の一時停止・再開やメールアドレスの変更などについても、上記【お問い合わせフォーム】からお知らせください。

### ◎利用上の注意

- ・ML での発信・返信は、「送信者名」、「アドレス」、「本文」が ML 登録会員全体で共有されます。特に返信の場合はご注意ください。
- ・添付ファイルを制限していませんので、コンピュータウィルスに対しては各自で防衛してください。
- ・[jstsm1@googlegroups.com](mailto:jstsm1@googlegroups.com) からのメールを受信できるように設定していただければ、携帯アドレスでの登録も可能ですが、添付ファイルの容量制限等もありますので、PC アドレスでの登録をお勧めします。
- ・大学や職場のドメインを含むアドレスの場合、ウェブ投稿機能がドメイン管理者により無効にされていることがあります。ご自身の投稿が反映されない場合には、ドメイン管理者にご確認の上、別アドレスへの変更等をご検討ください。



## 編集後記



みなさまはお元気にお過ごしでいらっしゃいますか。想定していなかった生活が続いています。編集が遅れましたことをお詫び申し上げます。この68号では、第34回学術講演会の記録と、2021年1月の第35回学術講演会のご案内を中心に編集いたしました。今後、国際雑誌、国際学会などの抄録をお寄せいただけますと幸いです。これまでの会員のみなさまのご協力に感謝しますとともに、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

編集委員： 廣瀬英子（上智大学）・福島昌子（福井大学大学院）